

### 39.「野付半島と打瀬舟」(別海町、標津町)

野付半島は全長26kmの日本最大の砂嘴(さし)で、擦文時代の竪穴式住居も見られる。江戸時代には国後へ渡る要所として通行屋が設けられ、北方警備の武士も駐在した。トドワラ、ナラワラの特異な景観や、春と秋に野付湾に浮かぶ打瀬舟の風景が多くの入客をひきつけている。北海シマエビ漁に用いられる打瀬舟は野付湾の風物詩として知られ、霧にかすむ舟影は幻想的。



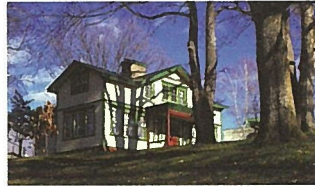
### 40.「ワッカ／小清水原生花園」(北見市、小清水町)

ワッカ原生花園は「龍宮街道」と呼ばれる日本最大の海岸草原。オホーツク海とサロマ湖に面し、春から秋には300種以上の草花が咲き誇る。車の乗り入れ規制や地元漁協による植林など先駆的な試みを展開する。小清水原生花園は一時、花が衰退したが、平成5年より野焼きや球根の植栽、帰化植物の除去を行い、花のあふれる公園に生まれ変わった。後背部の霧瀧湖沿いにあるヒオウギアヤメ群落とそこに放牧される馬の群れは特有の景観。



### 41.「ピアソン記念館」(北見市)

アメリカ人宣教師G.P.ピアソン夫妻の私邸として大正3年に建てられた。夫妻は道内各地を伝道し、その終着に選んだ地がアイヌ語で「地の果て」を意味する野付牛(現在の北見)。廃墟運動や慈善活動など、夫妻の志は今も北見の精神文化のよりどころとして多くの市民に親しまれている。設計者は近江兄弟社創設者としても知られているW.M.ヴォーリス。



### 42.「森林鉄道蒸気機関車『雨宮21号』」(遠軽町)

「雨宮21号」は東京・雨宮製作所で製造された初の国産11トン機関車。昭和3年、丸瀬布―武利意森林鉄道に配置され、国有林から伐り出した丸太や生活物資の搬送に携わってきたが昭和36年に廃止。地元の強い要望で昭和51年、北見営林局から旧丸瀬布町に譲渡され、町は「森林公園いこいの森」を建設、機関車を走らせた。動態保存は道内では唯一のもの。



### 43.「オホーツク沿岸の古代遺跡群」(網走地域)

オホーツク沿岸地域では縄文、続縄文、オホーツク文化、アイヌ文化まで各時代の遺跡が分布し、遠軽町白滝地区など内陸部では旧石器時代の遺跡が多く見られる。オホーツク沿岸の遺跡は樺太・シベリアなど大陸諸文化との関係が強く認められ、竪穴住居が連綿と残る常呂遺跡、オホーツク文化遺跡として著名なモヨロ貝塚、縄文後期の朱円周堤墓などが代表格。



### 44.「流水とガリンコ号」(紋別市など)

冬のオホーツク沿岸に押し寄せる海の邪魔者を逆手に取った流水観光。紋別市ではアラスカの油田開発用に試験的に作られた砕氷船を「ガリンコ号」と名付け、流水の海へ乗り出した。沖合約1kmのオホーツクタワーでは、海底7.5mから流水観察や流水下のさまざまな生態の観測ができる。紋別市は流水研究国際都市を宣言し、流水の大切さを訴えている。



### 45.屯田兵村と兵屋(北海道各地)

屯田兵は明治8年の札幌郡琴似村に始まり、開拓と軍備のため、明治32年の士別、剣淵まで道内各地に37の兵村が置かれた。上湧別には当時の区画の北兵村地区と南兵村地区が残る。札幌市琴似、士別市、厚岸町太田、根室市和田などに兵屋、札幌市新琴似、江別市野幌に中隊本部の建物が保存され、北見市の信善光寺には屯田兵人形75体が祭られている。



### 46.「北海道の馬文化

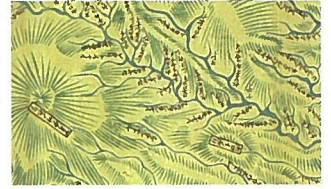
(ばん馬、日高のサラブレッドなど)」(北海道各地)

北海道の馬の歴史は古く、明治期には農耕など開拓の労働力として人々と苦勞をともにしてきた。農耕馬の力を試したお祭りばん馬は「ばんえい競馬」に発展し、速さを求めてはサラブレッドの改良が進み、浦河町の「JRA日高育成牧場」では世界に通用する強い馬づくりに取り組んでいる。また馬産地・日高の牧場風景は観光資源にもなっている。



### 47.「アイヌ語地名」(北海道各地)

北海道の地名の約8割はアイヌ語に由来するとされている。アイヌ語の地名は、知らない場所でも、その名から地形や位置づけなどが分かるものとなっており、現在は片仮名や漢字で表記され原音と異なる場合もあるが、本来はアイヌ民族の自然と調和した伝統的生活の中から歴史的に形成された。アイヌ文化の意義を理解する重要な手がかりとなっている。



### 48.「アイヌ文様」(北海道各地)

世界の各民族には、それぞれ独特の精神的意味合いを含めた「文様」がある。アイヌ文様の基本は「渦巻き(モレウ)」「とげのある形(アイウシ)」「うろこ(ラムラムノカ)」の3つ。これらを組み合わせ、連続した線にむすんでいく。その形状、図案や色彩は、印象深い美的価値を含んでおり、文化的にも秀逸なものとして近年、注目が高まっている。



### 49.「アイヌ口承文芸」(北海道各地)

アイヌ民族が育んできた文化「口承文芸」は人から人へ、長い間、途切れることなく語り伝えられてきた。語り手の話を聞いて楽しみ、味わうことで伝えられてきたもので、英雄叙事詩、神話、散文説話などがある。サコロベ、ユカラなどと呼ばれる英雄叙事詩は、短いメロディーを繰り返しながら、空を飛ぶなど超人的な行動も含まれる壮大なストーリー。



### 50.「サケの文化」(北海道各地)

サケは北海道を代表する食材。その歴史は古く、擦文時代の遺跡からサケを捕獲したと推定される装置が発見され、アイヌ民族もまたサケ漁を生業のものとしてきた。産卵のため母川に回帰する習性を利用しての漁法が発達し、親魚の保護や人工孵化事業も早くから行われてきた。母川回帰は生命のドラマを生み、自然環境保護の目に見える指標でもある。



### 51.「北海道のラーメン」(北海道各地)

ラーメンの起源は諸説あるが、戦後急速に北海道民の食生活の中に定着し、寒冷な気候から、コクがあり濃い味のラーメンが、北海道の代表的な食文化として発展した。ラーメンは、北海道の観光資源としても欠かせない存在であり、札幌・函館・旭川・釧路など、地域ごとに特色を持ったラーメンが脚光を浴び、ご当地ラーメンブームの火付け役となった。



### 52.「ジンギスカン」(北海道各地)

ジンギスカン料理の発祥については諸説があるが、北海道でもっとも広く、かつ特徴的に発達した。大陸にも原型はみられるが、味付けなど羊肉を美味しく食べる工夫が凝らされ、新しい料理として北海道で確立したといえる。観光の魅力の一つであるとともに、花見などでも定番であるジンギスカンは、鍋を囲んで人と人をつなげる役割も果たしている。

